

平成 24 年度 第 3 回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 平成 25 年 3 月 22 日（金） 19：00～21：00

〔開催場所〕 昭島市役所 3 階庁議室

〔出席者〕

- 1 委員： 椎名会長、嶽山副会長、川勝委員、椎名（裕）委員、高垣委員、丹野委員、
長瀬委員、久富委員、馬瀬委員
- 2 事務局： 村野環境部長、山口環境課長、指田係長、加藤主査、吉村係長、松永係長
秋山主任
- 3 傍聴者： なし

〔議事要旨〕

- 1 開会
- 2 議題
（１）「昭島市の環境」について
- 3 その他
（１）平成 25 年度カーボン・オフセット事業概要について
（２）第 5 回あきしま環境緑花フェスティバルについて
（３）昭島市の水について
- 4 閉会

〔配布資料〕

- | | |
|------|---------------------------------|
| 資料 1 | 「昭島市の環境（昭島市環境基本計画進捗状況確認表案）」について |
| 資料 2 | 平成 25 年度カーボン・オフセット事業概要 |
| 資料 3 | あきしま環境緑花フェスティバル（チラシ） |
| 別 紙 | あきしま環境緑花フェスティバルの開催について |
| 別 紙 | あきしま環境マップ VOL. 1 |
| 別 紙 | 広報紙VOL. 23 水道だより |
| 別 紙 | 昭島市の水道 |

〔発言要旨〕

- 2 議題
（１）「昭島市の環境」について

会 長：この資料 1 については、取組状況の数値等は毎年このように結果を出していくのか。

事 務 局：そうだ。毎年取組状況に結果を出していく。

会 長：目標年度は平成 33 年度となっており、昭島市環境基本計画を改定した平成 23 年度から 10 年の期間を要することとなっている。毎年取組状況に結果を出していくのは分かるが、最終的な目標年度までの間の過程も重要だと思っているが、この資料 1 のよ

うに単に単年度毎の結果を出すだけで分かるものなのか。

事務局：資料１は確かに単年度の結果が出してあるが、詳細や単年度毎のデータの蓄積をまとめたものは「昭島市の環境」の中の事業実施報告の部分で補完していくつもりではある。

川勝委員：資料１の中に雨水貯留槽の設置台数を指標として取り上げているが、これは個人の家に設置するタイプのものなのか。

事務局：そうだ。

川勝委員：昭島市では、地下水 100%の水道水を維持するために行政として他にももっといろいろなことをやっていると思うので、そうした取組をもっとうまくとりまとめて資料化できないか。

事務局：「昭島市の環境」の事業実施報告の中に行政の取組をまとめてはいるのでご理解いただきたい。

事務局：本日、事務局からご提案させていただいた資料１について委員からご質問を何点かいただき感謝している。今日お配りした資料１については、以前から課題とされてきた昭島市環境基本計画の目標達成度の評価方法について改善させていただいたものである。従来の評価方法は昭島市環境基本計画の取組施策を行っているか行っていないかだけでの評価であり、このことについてはどの程度目標が達成できたのか分からないなどのご指摘をいただいていた部分であり、その改善を図る形で指標という新たな形を用い定量化できるものは、定量化し目標達成度を計っていきたいと考えている。委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて事務局で再度検討し、次年度の「昭島市の環境」に反映させていただきたいと思う。

会長：先ほども述べたが、結果も大事だが、過程も大事だと思っている。結果が悪かったから行政として何もしてないと思われてしまうのは残念なことでもあり、その過程を見せることで行政としても取組を行っていることを多くの人に理解してもらい、また過程を見直すことで今後の結果が変わるとの期待ももてる意味で十分、事務局で検討していただいた上で良いものを作成してほしい。

椎名委員：細かいことで申し訳ないが、確認させて欲しい。資料１の中に取組状況の中に未実施という表現があったが、これは計画策定段階ということなのか。

事務局：今、取組がなされていないものでお示しできるいい表現がなかったのがこのような表現になっている。ただし、何かしらの検討がなされている場合は検討中などとしてもいいかもしれない。

長瀬委員：計画はあるが、やっていないということであればこの未実施という表現でもいいのでは。

久富委員：目標年度が近いものなどについては、既に何か実施していなければいけないが、目標年度が先のものについては未実施でもいいかと思う。

会長：未実施という表現で済ませるのではなく、何もしていないということは、無いと思うのでその過程を記載するなどもう少し詳細に表現してみてもどうかと思う。

事務局：会長からご指摘をいただいた意見を参考に過程を大事にして表現をもう少し工夫していきたい。

長瀬委員：資料１の個別目標の中の項目について１点意見を言わせて欲しい。河川の保全活動に参加する人数についてはせっかく良いことを市民に行ってもらっているのだから、参加者を減らしてはいけないと思う。様々なアプローチをして参加者を減らさないよう

に努力して欲しい。

3 その他

(1) 平成 25 年度カーボン・オフセット事業概要について

会 長：確認だが、カーボン・オフセットとは岩泉町の二酸化炭素の吸収量を昭島市がお金を出したり、人を出したりして計算上は昭島市の二酸化炭素排出量が無かったことにするという意味でいいのか。

事 務 局：そうだ。削減努力を行うというのが前提だが。

会 長：努力とはどういうことを指すのか。

事 務 局：節電などのエネルギー削減努力である。

会 長：つまり、昭島市の削減努力と岩泉町の森林による二酸化炭素吸収量があって初めて成り立つものなのか。

事 務 局：そのとおりだ。付け加えるとカーボン・オフセットは地域特性を活かした環境分野での地域の交流を活発化し、環境保全に貢献する人づくりを目指しているという本来の目的がある。

久富委員：カーボン・オフセットという言葉はなかなか理解しづらい印象がある。事務局に地域間交流や人材育成といった本来の目的があるなら、そちらを事業名称にするなどした方が受け入れやすいのではないかと思う。

副 会 長：確かにカーボン・オフセットという言葉は理解しづらい。カーボン・オフセットと問われて答えがまちまちだと困る、また、誰が答えても同じ回答でないといけいないのでよく整理しないといけいないのではないかと思う。

川勝委員：環境相互維持などもっと分かりやすい表現にしたほうが良いのではないかと思う。昭島市と岩泉町が相互に環境を維持するための取組なのだから。森林を維持することの大変さはよく聞いている。当然岩泉町もそうした課題を抱えていると思う。昭島市から交流ということで岩泉町に行き、森林を維持することの大変さを体験してもらい、実感してもらうことが大変重要だと思う。こうした経験がお互いの地域の環境の維持につながっていくと思う。

事 務 局：ここで交流について力を入れていくのだが、以前からも交流がありこの交流を更に発展させていきたいと考えている。

川勝委員：昭島市と岩泉町の交流の中で岩泉町の人たちが昭島市のどういう点を良いと思っているのか参考に聞かせてほしい。

事 務 局：職員レベルの話をさせていただくと、昭島市の行政としての先進的な部分などを学んでもらい持ち帰っていただいていると思っている。

会 長：地域間の特色を活かした交流は大変良いと思う。ただし、このカーボン・オフセットが目的になるのではなく、一つの手段としての認識を意識して行って欲しいと思う。今後、岩泉町とだけでなく様々な地域との交流事業の一つのモデルケースとなって欲しいと思う。だから交流事業ということでは、カーボン・オフセットという名称にこだわらなくても良いのではないかと思う。

事 務 局：大局的に考えると、地域と地域はつながっている。つながってはいるがそれぞれの特色を活かして地域が活発化して欲しい思いがある。

会 長：カーボン・オフセットの表面的な部分にだけ目がいくと非常に取組としては中身の無いものになってしまうが、昭島市が平成 25 年度行おうとしていることはそうでないと思うし、ぜひ、中身のある事業として行って欲しい。

長瀬委員：岩泉町との交流はどのような形で今まで行われていたか参考に教えてほしい。

事務局：岩泉町との交流はおいしい水を抱える地域同士として出会い、その後様々なイベントにお互い行き来して交流を深めてきた。また、東日本大震災以降は岩泉町が被災したということもあってより深まった。しかし、復興支援に関する関係にとどまらず未来志向で関係を深めていきたいとのお話を岩泉町長からもいただいている。そうした考え方の中でのひとつのきっかけとして環境を通じての交流を行っている。

長瀬委員：未来志向ということであれば、子ども達の交流は行われているか。

事務局：以前から国内交流という形で子ども達同士の交流は行われている。

会長：未来思考という言葉から考えるとますますこの交流事業は重要だと思う。

事務局：繰り返しになるが、環境保全に貢献する人づくりをこの事業の目的として考えているのでその目的のために事業を展開していきたい。岩泉町の森林は大変豊かである。体験して初めて分かるものがある。そういう体験ができる場所であり、自然あつての人間であるという、自然と人間関係を改めて思い出させてくれる。

（２）第５回あきしま環境緑花フェスティバルについて

川勝委員：岩泉町の出展があるとお聞きしたが、岩泉町は森林が大変多いと聞いた。岩泉町は針葉樹が多いのか。

事務局：そうだ。

川勝委員：戦後の杉などの針葉樹需要が増えた中で、多くの針葉樹が植林されたと思う。森林を構成する樹木の中心という中で、しかしながらその樹木が活用されない現状の中で森林を守っていくことの苦労はよく聞く。岩泉町も例外ではないと思う。森林保全を行っていくということで昭島市としてもこのフェスティバルに来ていただくことで森林保全に貢献できるのではないかと思う。

（３）昭島市の水について

長瀬委員：雨水貯留槽の取組は非常に良いと思う。もっと周知して多くの市民に知ってもらう努力をしていくべきだと思う。

事務局：水道部に実物を展示したりするなどして周知しているが、今後も様々な形で周知していく必要があると思う。飲み水として利用するのは難しいかと思うが植木への散水などに利用できるなどの用途があると思うので非常に実用的だと思う。

会長：東日本大震災以降、防災的な用途での使用も可能かと思われる。そうした視点も含めて広く周知してほしい。

副会長：雨水貯留槽は補助金をもらって設置でき、その補助金申請数も増加していると聞く。こういった理由が考えられるのか。

事務局：会長から少しお話のあった、東日本大震災の後の市民の防災に対する意識の高まりも増加したひとつの理由ではないかと思う。

会長：用水も含め、水には様々な利用用途があり、市民生活に欠かせないものでもある。昭島市といえば水という印象が強く、その恵まれた資源を今後どのように活かしていくかが重要であると思う。

このテーマについては引き続き環境審議会でも話しをしていき昭島市の水に対する考え方等を検討していきたい。

川勝委員：水のことで一点申し上げたい。最近大規模な開発があると水みちと呼ばれる水脈を分断してしまう。分断してしまうと湧水が枯れてしまうと思う。そうした自然環境の破壊を防ぐ意味でも開発を行う際にもそういった点に注意してもらいたいと思ってい

る。

会 長：今、川勝委員の言ったことは確かにそのとおりであると思う。開発と環境保全とのバランスをいかにとっていくかということであるかと思う。このことも含めて今後検討をしていきたいと思う。

馬瀬委員：議題の内容に戻ってしまうのだが、昭島市環境基本計画で環境懇談会を行うとしているが、進捗状況を教えてほしい。

事務局：平成 24 年度は青年会議所の協力を得て環境懇談会に近い形のモデル事業として事業を行った。今後は、この事業を発展させて環境懇談会の実施に向けて推進していきたいと思う。

丹野委員：私も議題の内容について確認したいのだが、大気の測定に関して環境基準を全て達成しているとなっているが、私の知る限り全て達成していないと思ったが。

事務局：大気の測定を昭島市で行っているものについては環境基準を満たしていると判断していたが、昭島市で測定できない大気の部分で環境基準を超えるものがあるという事実もあるので、そうした事実も考慮して表現の方法を考えていきたいと思う。

4 閉会

以上